

津山工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語Ⅲ
科目基礎情報				
科目番号	0051	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	総合理工学科(電気電子システム系)	対象学年	3	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	教科書: NEW Flag English Communication II (増進堂) FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST(センゲン・ジョーニング) TOEIC®L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ 参考書: 辞書(電子辞書可) ハンドアウト(A4,A3サイズのプリント)を閉じるためのフォルダーも必要。			
担当教員	堀秀暢 (一般)			
到達目標				
学習目的: 4技能(聴き・読み・書き・話す)をバランスよく養成する。				
到達目標: 1・英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができる。 2・高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することができる。 3・英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。 4・本文の要旨を英語または日本語でまとめることができる。 ◎5・コミュニケーションツールとしての口述、記述、図表などの特徴をあげることができる。				
ルーブリック				
	優	良	可	不可
評価項目1	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることが十分できる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることが最低限できる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができない。
評価項目2	高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することが十分できる。	高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することができる。	高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することが最低限できる。	高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することができない。
評価項目3	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが十分できる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが最低限できる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができない。
評価項目4	本文の趣旨を英語または日本語でまとめることが十分できる。	本文の趣旨を英語または日本語でまとめることができる。	本文の趣旨を英語または日本語でまとめることが最低限できる。	本文の趣旨を英語または日本語でまとめることができない。
評価項目5	コミュニケーションツールとしての口記、記述、図表などを理解し、特徴をあげることが十分できる。	コミュニケーションツールとしての口記、記述、図表などを理解し、特徴をあげることができる。	コミュニケーションツールとしての口記、記述、図表などを理解し、特徴をあげることが最低限できる。	コミュニケーションツールとしての口記、記述、図表などを理解し、特徴をあげることができない。
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	一般・専門の別: 一般 学習の分野: 英語・国際コミュニケーション推進プログラム 必修・必履修・履修・履修選択・選択の別: 必履修 基礎となる学問分野: 英語学・英米 / 英語圏文学・言語学・音声学 学科学習目標との関連: 本科目は「①教養豊かな実践的人間力の養成」, 「⑤グローバルな視点と社会性の養成」, 「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連: 本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力の育成」であるが, 付随的には「(B) 地球的視野に立った人間性の育成」に関与する。 授業の概要: 検定教科書の様々な分野の英文を用いて, 内容理解をおこなったうえで, 音読や簡単な作文といったアウトプット(話す・書く)活動を実施する。また, その基盤となるインプット(語彙・文法力)活動を実施する。			
授業の進め方・方法	授業の方法: 英語を読む, 聞く, 書く活動を中心に行い, 英語を使ったプレゼンテーションやディベートといった活動を目標とした, 英語を話す練習も行う。また, TOEIC-IP問題を解いて解答解説を行う。FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TESTのREADING PARTに関しては, 予習必須とする。 成績評価方法: 前期中間試験から後期中間試験までは, 定期試験の結果を平均して評価する(50%)。定期試験の結果に加え, 平素の課題・自己評価など(50%)を総合して成績評価をおこなう。年度末の成績評価は, 後期末試験まで加え, 上記の方法で算出された結果を90%に換算し, TOEIC-IP Testの結果を10%加えて評価する。試験には教科書・ノートの持込みを許可しない。場合によっては再試験を実施する。			
注意点	履修上の注意: 本科目は学年の課程修了のために履修が必須である。 履修のアドバイス: 授業のための予習復習をするとともに, できるだけ多くの語彙を覚えること。授業には必ず辞書を持参授業のための予習復習をするとともに, できるだけ多くの語彙を覚えること。授業には必ず辞書を持参すること(電子辞書も可)。 基礎科目: 英語I(1年), 英語表現I(1), 英語II(2), 英語表現II(2) 関連科目: 英語IV(4年), 国際英語論I(4), 国際英語論II(4), 英語V(5) 受講上のアドバイス: 積極的に授業に参加すること。講義ならびに音読や英作文の活動は, 運用能力向上のための基礎となる。そのため, 必ず, 毎回, 教科書・フォルダー・辞典(英和・和英, または電子辞書)を持参し, 予習や復習, 課題に取り組んだうえで授業に臨み, 理解を深めてほしい。後期中間試験後(予定)に実施されるTOEIC-IP Testを必ず受験すること。また課ごとのリスニング課題だけでなく, 音声教材を活用してリスニング力の向上に努めてほしい。遅刻について: 授業開始5分すぎでの入室は欠課扱いとする。			
授業計画				

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	前期ガイダンス	1年間の学習方法について理解し、学習計画の見通しを立てられる
		2週	Chapter 7 GET READY TOEIC Unit 1	課を通しての文法事項の概要を理解する。TOEICのShoppingに関わる語彙とリスニング問題が解ける
		3週	Chapter 7 Part 1 TOEIC Unit 1	本文理解ができる。TOEICのShoppingに関わる文法と読解問題が解ける
		4週	Chapter 7 Part 2 TOEIC Unit 2	本文理解ができる。TOEICのDaily Lifeに関わる語彙とリスニング問題が解ける
		5週	Chapter 7 Part 3 TOEIC Unit 2	本文理解ができる。TOEICのDaily Lifeに関わる文法と読解問題が解ける
		6週	Chapter 7 Part 4 TOEIC Unit 3	本文理解ができる。TOEICのTransportationに関わる語彙とリスニング問題が解ける
		7週	Chapter 7 Review TOEIC Unit 3	課を通してのまとめができる。TOEICのTransportationに関わる文法と読解問題が解ける
		8週	前期中間試験	学習内容の習熟度が確認できる
	2ndQ	9週	前期中間試験の答案返却と試験解説, Chapter 8 Get Ready	テストを振り返り、課題を見つけ、今後の学習計画の見通しが立てられる。課を通しての文法事項の概要を理解する。
		10週	Chapter 8 Part 1 TOEIC Unit 4	本文理解ができる。TOEICのJobsに関わる語彙とリスニング問題が解ける
		11週	Chapter 8 Part 2 TOEIC Unit 4	本文理解ができる。TOEICのJobsに関わる文法と読解問題が解ける
		12週	Chapter 8 Part 3 TOEIC Unit 5	本文理解ができる。TOEICのMealsに関わる語彙とリスニング問題が解ける
		13週	Chapter 8 Part 4 TOEIC Unit 5	本文理解ができる。TOEICのMealsに関わる文法と読解問題が解ける
		14週	Chapter 8 Part 5, Review まとめと前期末試験対策	学習した内容を振り返り、対策を立てることができる
		15週	前期末試験	学習内容の習熟度が確認できる
		16週	前期末試験の答案返却と試験解説, 夏季課題 Optional Reading, TOEIC Unit 6～7 (詳細は別途指示, 変更の可能性ある)	テストを振り返り、課題を見つけ、今後の学習計画の見通しが立てられる
後期	3rdQ	1週	TOEIC 夏課題の解答解説 Chapter 9 GET READY	夏課題の学習を振り返り、理解の確認ができる。課を通しての文法事項の概要を理解する。
		2週	Chapter 9 Part1 TOEIC Unit 8	本文理解ができる。TOEICのOffice Workに関わる語彙とリスニング問題が解ける
		3週	Chapter 9 Part 2 TOEIC Unit 8	本文理解ができる。TOEICのOffice Workに関わる文法と読解問題が解ける
		4週	Chapter 9 Part 3 TOEIC Unit 9	本文理解ができる。TOEICのMeetingに関わる語彙とリスニング問題が解ける
		5週	Chapter 9 Part 4 TOEIC Unit 9	本文理解ができる。TOEICのMeetingに関わる文法と読解問題が解ける
		6週	Chapter 9 Part 5 TOEIC Unit10	本文理解ができる。TOEICのTravelに関わる語彙とリスニング問題が解ける
		7週	Chapter 9 Part6 TOEIC Unit10	本文理解ができる。TOEICのTravelに関わる文法と読解問題が解ける
		8週	後期中間試験	学習内容の習熟度が確認できる
	4thQ	9週	後期中間試験の答案返却と試験解説, Chapter 10 Get Ready	テストを振り返り、課題を見つけ、今後の学習計画の見通しが立てられる。課を通しての文法事項の概要を理解する。
		10週	Chapter 10 Part1 TOEIC Unit11	本文理解ができる。TOEICのFinanceに関わる語彙とリスニング問題が解ける
		11週	Chapter 10 Part 2 TOEIC Unit11	本文理解ができる。TOEICのFinanceに関わる文法と読解問題が解ける
		12週	Chapter 10 Part 3 TOEIC Unit12	本文理解ができる。TOEICのBusinessに関わる語彙とリスニング問題が解ける
		13週	Chapter 10 Part 4 TOEIC Unit12	本文理解ができる。TOEICのBusinessに関わる文法と読解問題が解ける
		14週	Chapter 10 Part 5, Review	本文理解ができる。学習した内容を振り返り、対策を立てることができる
		15週	後期末試験	学習内容の習熟度が確認できる
		16週	後期末試験の答案返却と試験解説	テストを振り返り、課題を見つけ、次年度の学習計画の見通しが立てられる

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	前1
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	前1
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	前1
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	前1

			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	前1
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	前1
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	前1
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	前1
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	前1
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	前1
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	2	前1
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	2	前1
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	2	前1
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	2	前1
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	2	前1
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	2	前1
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	2	前1
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	2	前1
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	2	前1
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	2	前1

評価割合

	試験	自己評価	課題		合計
総合評価割合	50	10	40	0	100
基礎的能力	45	10	35	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	5	0	5	0	10